

# 2026年夏季ボーナス調査

2026年夏季のボーナス支給にあわせて、『支給推計調査』及び『アンケート調査』を実施しました。

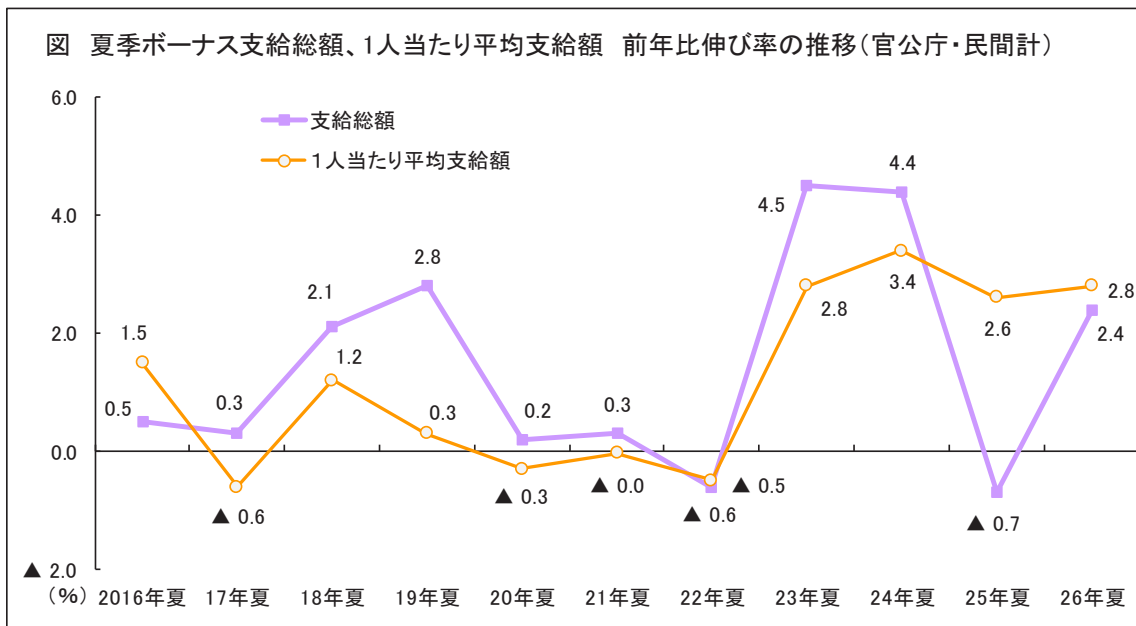


株式会社 山陰合同銀行 地域振興部 産業調査グループ

2026年6月30日

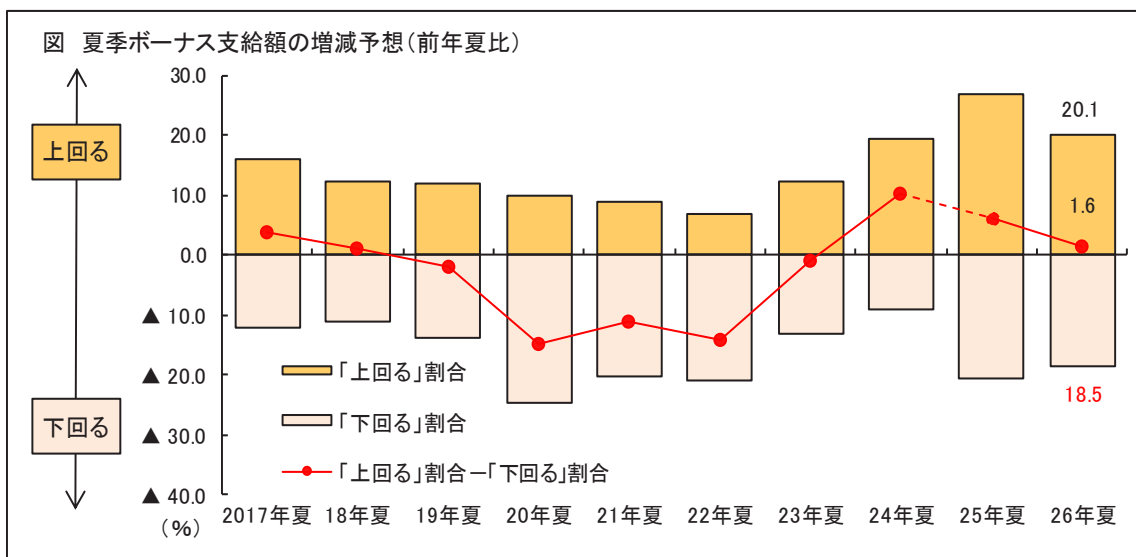
## I. ボーナス支給推計調査（支給する側）（P. 3～4）

～支給総額、1人当たり平均支給額ともに前年を上回る～



## II. ボーナスアンケート調査（受け取る側）（P. 5～9）

～支給額増減予想は3年連続で「上回る」割合が「下回る」割合を超過も、超過幅は縮小～



注:25年夏以降は、調査方法・対象を変更しているため24年夏以前と単純比較ができない点に留意が必要。以下、同じ。

**【結果概要】**（調査要領は4ページ、9ページ参照）

**I. 支給推計調査**

**(1) 支給総額**

- ・官公庁は4年連続で前年を上回り、民間は2年ぶりに前年を上回る。

**(2) 1人当たり平均支給額**

- ・官公庁は前年夏比5.4%増加、民間は同1.4%増加。

**(3) 民間企業の支給率動向（前年夏比）**

- ・全産業で「上回る」割合が「下回る」割合を超過。

**II. アンケート調査**

**(1) 支給額の増減予想（前年夏比）**

- ・全体で「上回る」割合は20.1%（前年夏比6.7ポイント減少）。
- ・「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値は1.6と、3年連続で「上回る」が「下回る」を超過したが、超過幅は縮小。

**(2) 予想支給額**

- ・全体では「20～40万円未満」が最多。
- ・高い支給額区分ほど増減予想の「上回る」割合が多くなる傾向。

**(3) 使い道**

- ・家計防衛の意向などから「預貯金」が前年夏と比べ増加。

**(4) 貯蓄する目的**

- ・「老後の生活への備え」が引き続き最多。

**(5) 運用方法**

- ・「定期預金」が前年夏と比べ最も増加。

# I. ボーナス支給推計調査

## ～支給総額、1人当たり平均支給額はともに前年を上回る～

2026年夏季のボーナス支給額・支給率などを、山陰両県に事業所を置く、**官公庁および常時30人以上雇用する民間事業所を対象に**、調査・推計しました。

### 1. 支給総額 ～官公庁は4年連続で前年を上回り、民間は2年ぶりに前年を上回る～

	山陰		鳥取県		島根県	
	(億円)	前年比(%)	(億円)	前年比(%)	(億円)	前年比(%)
全体	1,096	2.4	453	▲ 0.2	643	4.3
官公庁	375	5.2	162	4.6	213	5.7
民間	722	1.0	291	▲ 2.7	431	3.6

\*四捨五入の関係から合計が一致しないことがある、以下同。

山陰両県の**2026年夏季ボーナス支給総額は、約1,096億円**と推計されます。

これは、前年夏のボーナス支給総額(推計値)に比べ**2.4%(約26億円)増加**しました。

官公庁・民間別にみると、

(1) **官公庁**は、前年夏に比べ**5.2%(約19億円)増加**しました。支給総額には、**勧告\***による支給率の引き上げなどが影響しました。

※国家公務員は人事院勧告、県職員は人事委員会勧告。勧告される支給率は年間であり、夏季・冬季とも同じ割合で適用されるとは限らない。

(2) **民間**は、前年夏に比べ**1.0%(約7億円)増加**しました。県別では鳥取県が前年夏に比べ2.7%減少、島根県が3.6%増加しました。

支給対象者数が減少したものの、物価高騰や人材確保に向けた賃上げの動きなどが、支給額増加に寄与したと考えられます。

### 2. 1人当たり平均支給額 ～官公庁は前年比5.4%増加、民間は同1.4%増加～

	山陰 <sup>※</sup>		鳥取県		島根県	
	(千円)	前年比(%)	(千円)	前年比(%)	(千円)	前年比(%)
全体	445	2.8	429	2.5	458	2.9
官公庁	827	5.4	810	5.0	840	5.6
民間	359	1.4	340	0.5	374	1.9

※加重平均

1人当たりの平均支給額(推計値)は**全体**で445千円と、前年夏に比べ**2.8%(約12千円)増加**しました。

官公庁・民間別にみると、

(1) **官公庁**は、約827千円と、前年夏に比べ**5.4%(約42千円)増加**しました。県別では、鳥取県で前年夏に比べ約39千円増加、

島根県は約45千円増加しました。

(2) **民間**は、約359千円と、前年夏に比べ**1.4%(約5千円)増加**しました。県別では、鳥取県は前年夏に比べ0.5%(約2千円)増加し、島根県は1.9%(約7千円)増加しました。

## 3. 民間企業の支給率動向 ～全産業で「上回る」割合が「下回る」割合を超過～

(単位：％、太数字は今回調査、( )内は2025年冬季、「」内は2025年夏季)

	上回る	前年と同じ	下回る
全産業	<b>18.9</b> (14.5) 「14.9」	<b>72.2</b> (77.4) 「76.6」	<b>9.0</b> (8.0) 「8.4」
製造業	<b>20.8</b> (16.8) 「15.8」	<b>67.7</b> (71.6) 「73.3」	<b>11.5</b> (11.6) 「10.9」
土木・建設業	<b>25.4</b> (12.5) 「13.8」	<b>68.3</b> (78.6) 「82.8」	<b>6.3</b> (8.9) 「3.4」
卸・小売業	<b>15.4</b> (16.0) 「19.0」	<b>74.7</b> (79.0) 「75.0」	<b>9.9</b> (4.9) 「6.0」
その他	<b>17.2</b> (13.2) 「12.8」	<b>74.7</b> (79.6) 「77.3」	<b>8.0</b> (7.2) 「9.9」

民間企業の支給率動向を前年と比較すると、全産業では「前年と同じ (72.2%)」が最も多くなり、以下、「上回る (18.9%)」、「下回る (9.0%)」の順となりました。「上回る」が「下回る」を9.9ポ

イント超過しました。

業種別では、いずれも「上回る」が「下回る」を超過し、なかでも土木・建設業は「上回る」が「下回る」を19.1ポイント超過しました。

## 調査対象企業の業種別の特徴

- ・「**製造業**」では、「上回る (20.8%)」が「下回る (11.5%)」を超過しました。鉄鋼・金属関連の業種で「上回る」の回答が多くみられました。
- ・「**土木・建設業**」では、「上回る (25.4%)」が「下回る (6.3%)」を超過しました。人件費単価の上昇や人手不足などを背景に、「上回る」の回答が多くみられました。
- ・「**卸・小売業**」では、「上回る (15.4%)」が「下回る (9.9%)」を超過しました。人材確保の必要性が高まり、小売業を中心に「上回る」の回答が多くみられました。
- ・「**その他 (上記業種を除く)**」では、「上回る (17.2%)」が「下回る (8.0%)」を超過しました。情報通信や福祉関連などで「上回る」の回答がみられました。

## 【調査要領】

- ・官公庁については、ヒアリング、推計等により算出しています。民間については「経済センサス」、「毎月勤労統計調査地方報告」、事業所へのヒアリング (475 先) 等をもとに推計しました。
- ・なお、民間の前年対比の伸び率を算出するに当たっては、2025 年夏季、2026 年夏季ともに回答があった先を抽出し算出しました。このため、表で示した 2025 年夏季の支給総額と 1 人当たり平均支給額は、それぞれ前年同時期に発表した金額と異なっています。

注：「1. 支給総額」、「2. 1 人当たり平均支給額」の表の値について

- ・金額は、試算値 (原データ) を四捨五入して「億円」、「千円」で表示しています。伸び率は、試算値 (原データ) の値に基づいています。従って、表中の値で再計算しても合計等が一致しない場合があります。

## Ⅱ. ボーナスアンケート調査

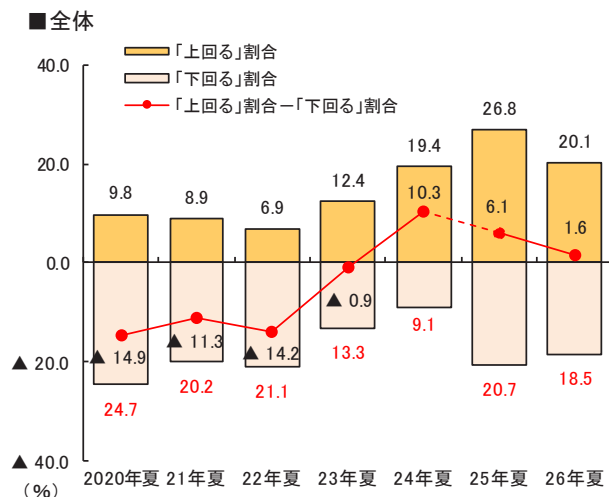
### 設問1. 今年の夏のボーナス支給額は前年夏に比べてどうなると予想されますか？

～全体で「上回る」割合が「下回る」割合を3年連続で超過も、超過幅は縮小～

#### ① 全体

今年の夏のボーナス支給額について、前年夏と比較して「上回る」と予想する世帯割合\*は、20.1%（前年夏比6.7ポイント減）、「下回る」は18.5%（同2.2ポイント減）、「同じくらい」は61.4%（同8.9ポイント増）となりました。

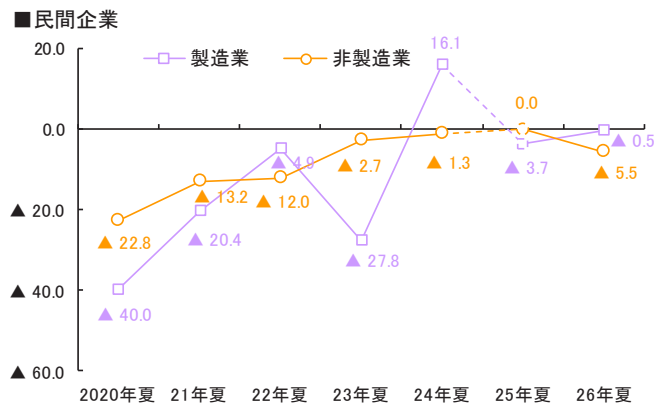
「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値は1.6と2年連続で「上回る」が「下回る」を超過しましたが、超過幅は縮小しました。なお、図示していませんが、民間企業、官公庁ともに「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値は悪化しました。



\*上記割合は、「支給なし」を控除して算出している。「支給なし」を算入した場合、「支給なし」は全体の14.7%となる（前年夏比0.9ポイント増加）。

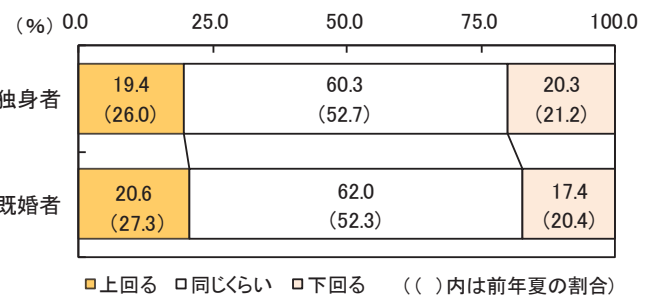
#### ② 製造業・非製造業別

全体のうち民間企業に勤務する世帯（官公庁等を除く）について、製造業・非製造業別に「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値を前年夏と比べると、製造業は改善、非製造業は悪化しました（製造業：▲3.7→▲0.5、非製造業：0.0→▲5.5）。



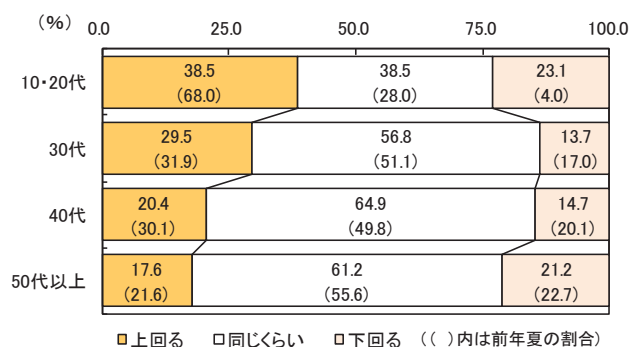
#### ③ 独身者・既婚者別

独身者・既婚者別にみると、「上回る」は独身者で19.4%（前年夏比6.6ポイント減）、既婚者で20.6%（同6.7ポイント減）、「下回る」は独身者で20.3%（同0.9ポイント減）、既婚者で17.4%（同3.0ポイント減）となりました。



#### ④ 年代別

年代別に「上回る」割合をみると、10・20代は38.5%（前年夏比29.5ポイント減）、30代は29.5%（同2.4ポイント減）、40代は20.4%（同9.7ポイント減）、50代以上は17.6%（同4.0ポイント減）となりました。



## 設問2. 今年の夏のボーナス支給額(税込)は、どのくらいになると予想されますか？

～予想支給額は「20～40万円未満」が最多。高い支給額区分ほど「上回る」割合が多くなる傾向～

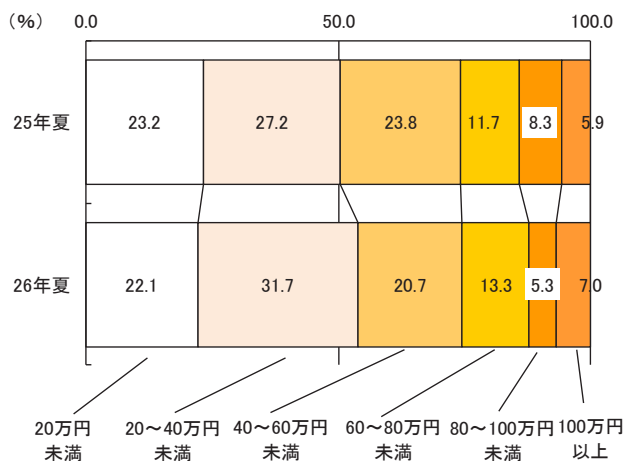
### ① 全体

今年の夏のボーナス予想支給額で最も多いのは「20～40万円未満(31.7%)」となり、以下、「20万円未満(22.1%)」、「40～60万円未満(20.7%)」と続きました。

『40万円未満』(「20万円未満」、「20～40万円未満」合計)の割合は53.8%と半数を超えています。

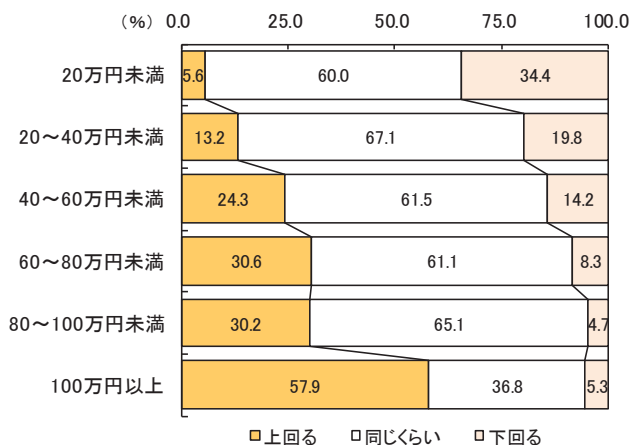
前年夏と比べ、「20～40万円未満(4.5ポイント増)」が最も増加し、「40～60万円未満(3.1ポイント減)」が最も減少しました。

また、『80万円以上』(「80～100万円未満」、「100万円以上」の合計)は12.3%と、前年夏と比べて1.9ポイント減少しています。



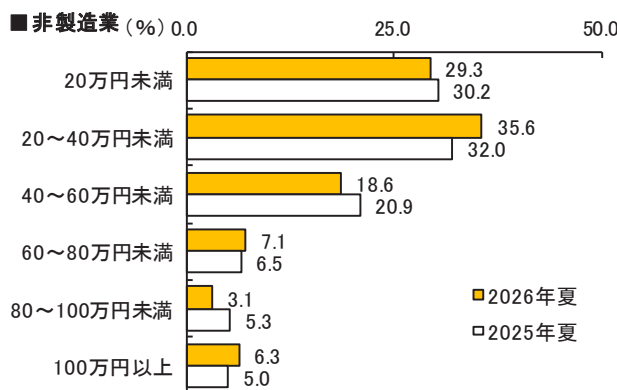
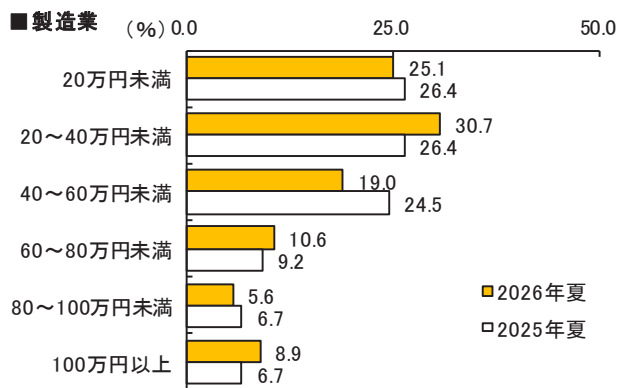
### ② 支給額区分別増減予想の割合

支給額区別に、増減予想(設問1の回答)の割合をみると、「上回る」割合が最も高い金額区分は「100万円以上(57.9%)」で、以下、「60～80万円未満(30.6%)」、「80～100万円未満(30.2%)」と続きました。一方、「下回る」割合が最も高い金額区分は「20万円未満(34.4%)」で、以下、「20～40万円未満(19.8%)」、「40～60万円未満(14.2%)」と続きました。



### ③ 製造業・非製造業別

製造業・非製造業別ともに、「20～40万円未満」が前年夏に比べ増加(製造業:4.3ポイント増、非製造業:3.6ポイント増)した一方、「40～60万円未満」が減少(製造業:5.5ポイント減、非製造業:2.3ポイント減)しました。



**設問3. 今年の夏のボーナスはどのように  
お使いになりますか？**

～家計防衛の意向などから  
「預貯金」が前年夏と比べ増加～

① 全体

ボーナスの使い道について合計 100%の配分比率でたずねたところ、「預貯金 (51.7%)」が最も多く、次いで「生活費補てん (14.6%)」、「借入金返済 (8.7%)」などと続いています。

前年夏と比べると(「その他」を除く、以下同様)、「預貯金 (51.7%、5.0ポイント増)」、「耐久消費財 (3.5%、0.9ポイント増)」などの割合が増加した一方、「生活費補てん (14.6%、2.5ポイント減)」、「学費 (2.4%、0.8ポイント減)」などの割合が減少しました。預貯金が増えるなど、家計防衛の意向がうかがえます。

② 独身者・既婚者別

独身者・既婚者別にみると、いずれも「預貯金」の回答割合が最も高くなりました。また、前年夏に比べ最も増加した項目もいずれも「預貯金 (独身者:58.0%、6.1ポイント増、既婚者:47.8%、4.3ポイント増)」でした。

一方、最も減少した項目は、いずれも「生活費補てん (独身者:11.5%、2.1ポイント減、既婚者:16.5%、2.7ポイント減)」でした。

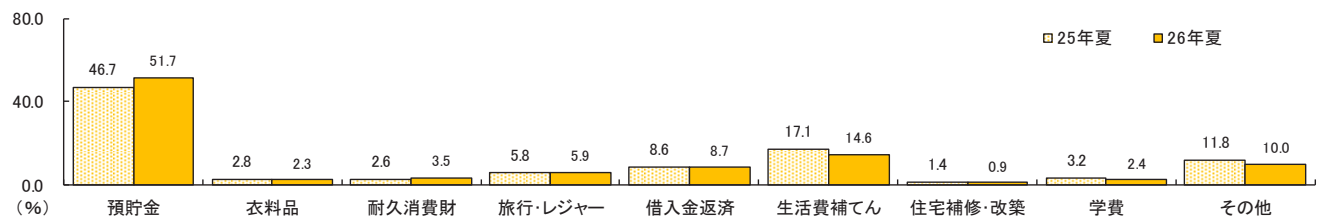
③ 年代別

年代別にみると、すべての年代で「預貯金 (10・20代:80.4%、30代:58.0%、40代:52.5%、50代以上:49.4%)」の回答割合が最も高くなりました。

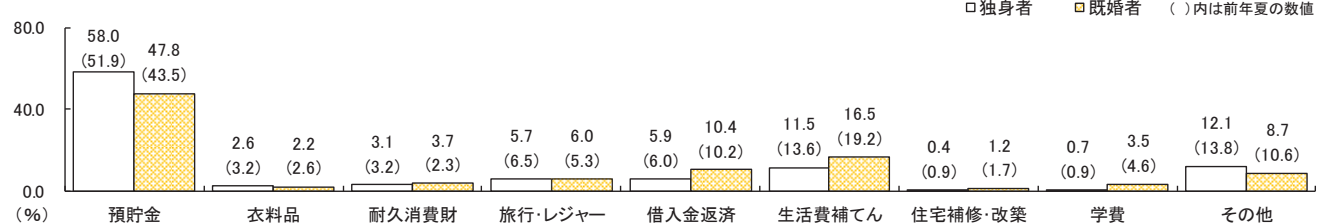
続いて高い回答割合は、すべての年代で「生活費補てん」となりました。

「その他」の回答として、「車検」等がありました。

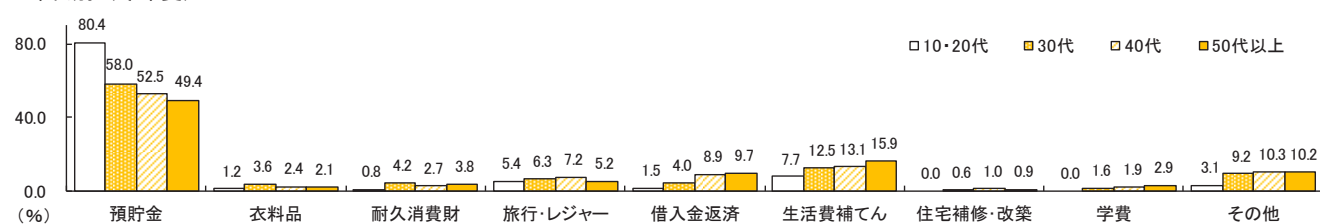
■全体 (2カ年比較)



■独身者・既婚者別 (今年夏)



■年代別 (今年夏)



**設問4. ボーナスを貯蓄(投資)する主な目的は何ですか(3つまで)?**

～「老後の生活への備え」が引き続き最多～

① 全体

ボーナスを貯蓄(投資)する場合の主な目的(3つまで)をたずねたところ、上位5項目は「老後の生活への備え(53.5%)」、「特に目的はないが貯蓄があれば安心だから(24.7%)」、「旅行・レジャー資金(20.8%)」、「病気・災害への備え(19.9%)」、「耐久消費財の購入(17.0%)」となりました。

上位5項目の前年夏との比較では、「旅行・レジャー資金(4位→3位)」が順位を上げました。

前年夏に比べ最も増加した回答は「老後の生活への備え(4.2ポイント増)」となりました。一方、最も減少した回答は「特に目的はないが貯蓄があれば安心だから

(2.4ポイント減)」となりました。

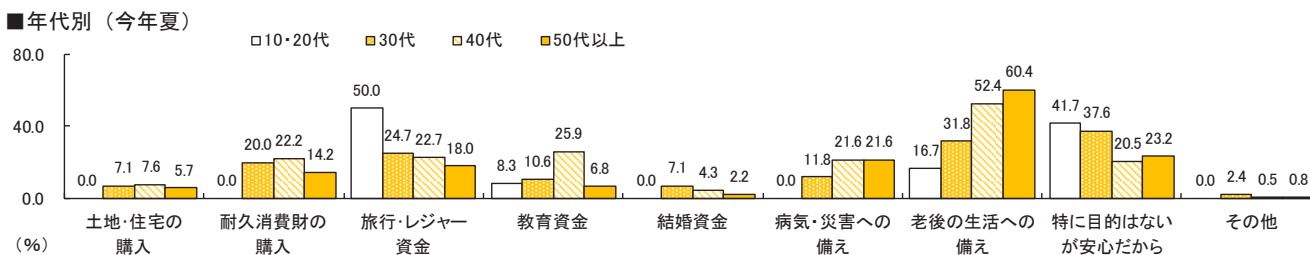
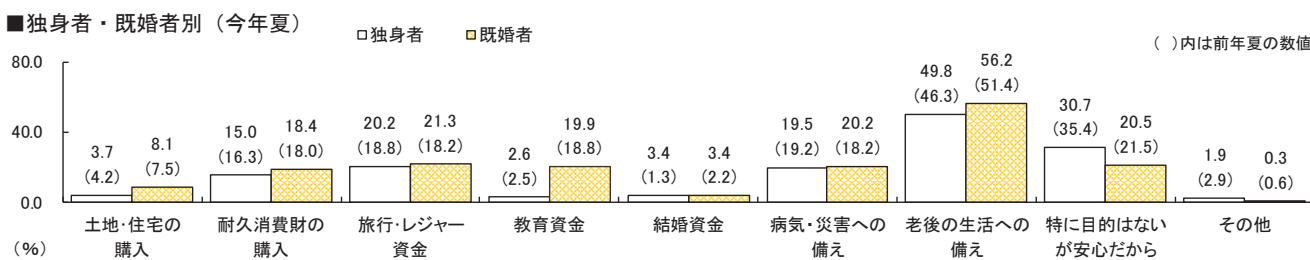
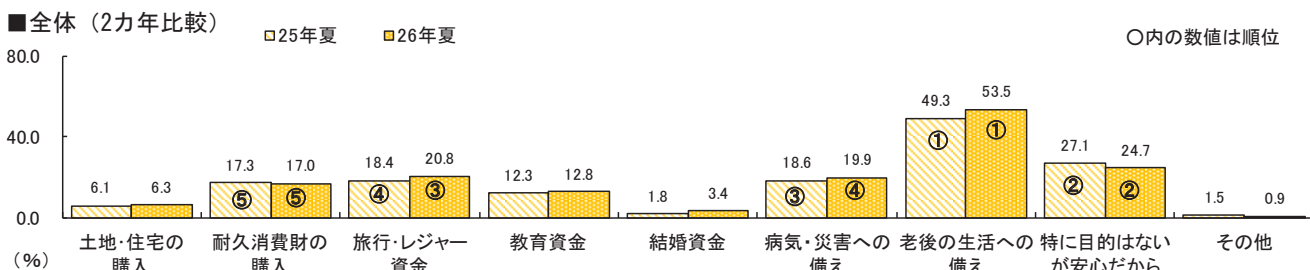
② 独身・既婚者別

独身者・既婚者別にみると、最も多かった回答は、独身者、既婚者ともに「老後の生活への備え(独身者:49.8%、既婚者:56.2%)」となりました。

また、前年夏に比べ最も増加した回答も、いずれも「老後の生活への備え(独身者:3.5ポイント増、既婚者:4.8ポイント増)」となりました。

③ 年代別

年代別にみると、最も多かった回答は、10・20代が「旅行・レジャー資金(50.0%)」、30代が「特に目的はないが貯蓄があれば安心だから(37.6%)」、40代、50代以上が「老後の生活への備え(40代:52.4%、50代以上:60.4%)」となりました。



### 設問5. 夏のボーナスを貯蓄（投資）される場合 どんな方法でされますか(複数回答)?

～「定期預金」が前年夏と比べ最も増加～

#### ① 全体

ボーナスの運用方法（複数回答）をたずねたところ、最も多かった回答は「普通預金（77.9%）」となり、以下、「定期預金（23.2%）」、「投資信託（13.7%）」、「財形貯蓄（7.0%）」、「株式（6.9%）」と続きました。

前年夏に比べ最も増加した回答は「定期預金（23.2%、3.2ポイント増）」であり、最も減少した回答は「財形貯蓄（7.0%、3.0ポイント減）」となりました。

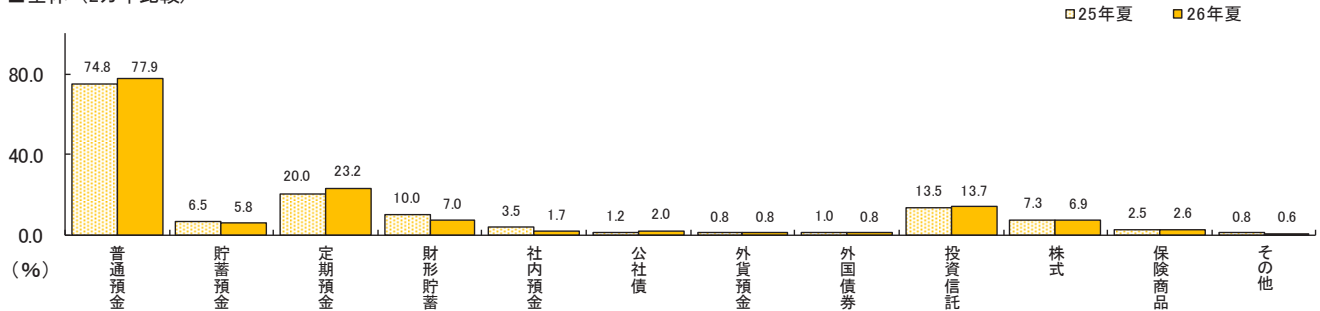
#### ② 独身者・既婚者別

独身者・既婚者別にみると、最も多かった回答は、独身者、既婚者ともに「普通預金（独身者：80.3%、既婚者：76.2%）」となりました。

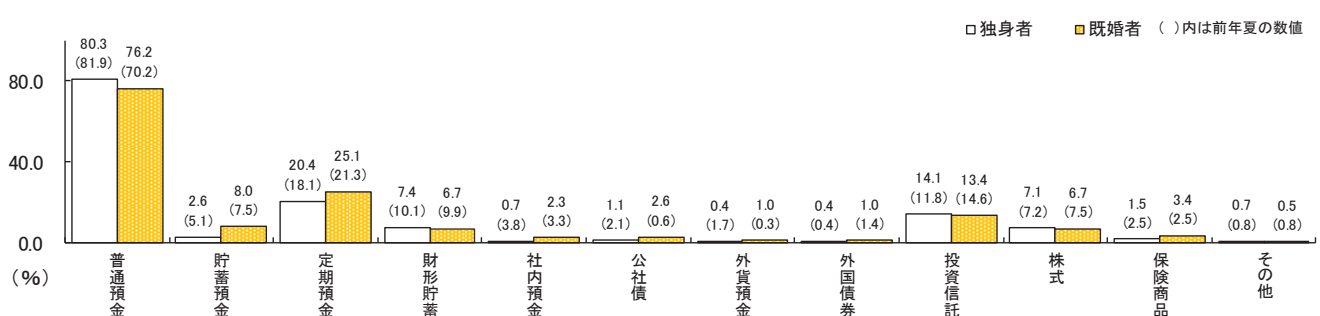
また、前年夏に比べ最も増加した回答は、独身者は「定期預金（2.3ポイント増）」、「投資信託（2.3ポイント増）」、既婚者は「普通預金（6.0ポイント増）」となりました。

独身者は、資産形成の意向がうかがえる一方、既婚者は、比較的流動性の高い普通預金が増加するなど、家計防衛の意向がうかがえます。

■全体（2カ年比較）



■独身者・既婚者別



#### 【調査要領】

1. 期 間：2026年6月12日～6月16日
2. 対 象：鳥取県・島根県在住の給与所得世帯（民間企業、官公庁、各種団体等ほか）
3. 調査方法：WEB アンケートサービスを利用
4. 回 答 数：1,000（県別内訳：鳥取県 397、島根県 590、両県以外 13）

**2026年夏季ボーナス調査**

**発行：株式会社 山陰合同銀行 地域振興部 産業調査グループ**

〒690-0062

島根県松江市魚町10

TEL:0852-55-1000 FAX:0852-27-8249

2026年6月

**無断転載を禁ずる**